

# ミュゼ

2018.4.25

120

ミュゼ VOL.120 本体価格：1,000円+税

発行日/2018年4月25日  
編集アドバイザー/小林達雄  
発行人/横山光衛  
編集長/山下治子  
アート・ディレクター/渡辺祐一 (CIA)  
デザイン・DTP/澤谷こずえ (CIA)

発行/株式会社アム・プロモーション  
〒108-0014 東京都港区芝4-3-2-110  
TEL.03-6453-7878  
FAX.03-6453-7886  
E-mail um@cia.co.jp  
http://www.musee-um.co.jp

印刷・製本/株式会社 CIA  
福島県伊達市築川町  
やながわ工業団地 90-1

「ミュゼ」は CIA グループの社会貢献としての文化事業です。

CIA グループとは、福島県に拠点を置き、情報（印刷、メディア、インターネット）、コンサルティング（ショップ、商品企画・海外進出）、イベント（スポーツ、音楽、飲食、物販）等を独特なスタイルで表現する集団です。

Contents

Journal Pockets

- 4 Where culture meets nature, Exhibition "Nature History of Sake"
- 6 The symposium had held on Museums law.
- 7 Two National Museums Directors meetings had held.
- 8 For ICOM Kyoto 2019, Two meeting had held at Kyoto National Museum Kyohakuren had held 25th anniversary.
- 9 9th Chiisaitoko Summit had held in Daito City.

Journal Musee

- 10 Hiroshima Prefectural Art Museum improve The Parmanent collect Exhibitions.  
Interview Hiroko Fukuda
- 14 Exhibition Keep cultural assets! At Niigata Prefectural Museum of History Power of Museums and Power of People, Tetsuya Yamamoto.
- 18 Cooperation Art class at Siga Prefectural Zeze High School.

Serials

- 22 A thinking journey for architecture museums extra edition  
Eiji Mizushima, Director General, Nagasaki Museum of History and Culture
- 26 Dear! Museum Goods.  
The Tokugawa Art Museum, Kyoto railway museum, Lake Biwa Museum  
Yao city Shionjiyama kofun Gakushukan, The Omiya Bonsai Art Museum  
Saitama,  
Yamanashi Prefectural Museum, The museum of fine arts, Gifu  
Gifu Museum Association workshop, Thinking by museum goods.  
Yuka Waka, Minokamo city Museum
- 29 Way to Chigasaki city Museum of Art  
Junichi Norota, Kanagawa International Foundation
- 30 Good museum item favored by Kurihara 7  
Kagami Bidaki set  
Yuji Kurihara, Director, General Affairs Department,  
Kyoto National Museum
- 31 Have one! Delicious Museum 7  
Clematis no Oka  
Kyosuke Iida
- 32 café de Musee  
Thinking about Kodomo Hikari Project Meeting.  
Ayumi Nishimura
- 33 Researching Japanese Society—New Mexico Journal 34  
Los Alamos  
Professor, Akihiro Ogawa, Melbourne University
- 34 Power of Heard, Power of Soft 44  
Masahiro Matsubara, Digitalium Projects!  
Hiroko Kaneda, Illusion Mill
- 36 Book Review
- 40 Musée Back Numbers
- 40\*41 Books of UM Promotion
- 42 Information



八戸市の是川縄文館すぐ脇で遺跡の草刈りを委嘱され、  
ドライバーたちを和ませるヤギとポニー。  
ここ数年、春から秋の風物詩だ。  
でも、まだ人は「ヤギとポニー」と呼ぶ。  
「ヤギとポニー」は草を食みながら、つぶやくだろう。  
合掌土偶「いのるん」みたいに愛称をつけられたなら、  
もっと、もっとミュージアムに近づけるのに…。  
惹きつけて、ミュージアム！



「日本酒の自然誌 Where culture meets nature」  
広島県立美術館 所蔵作品展の充実に向けて  
新潟県立歴史博物館 企画展  
「守れ!文化財 — 博物館のチカラ、市民のチカラ—」  
文化芸術で人や社会のあり方を考える高校美術の授業  
～滋賀県立膳所高校の「連携授業」

ICOM 京都大会に向けて運営委員会フル回転  
～2017年度 ICOM 国際委員会年次大会報告会、第2回運営委員会～  
2018.3.10 京都国立博物館



いよいよあと1年半に迫ったICOM 京都大会に向けて、ICOM 京都大会運営委員会がフル回転で準備を進めている。3月10日には、京都国立博物館で「2017年度 ICOM 国際委員会年次大会報告会」および「第2回運営委員会」を開催した。ICOMには30の国際委員会があり、大会開催年以外、世界各地で各委員会が年次大会を開催している。運営委員会では、各国際委員会に日本側の「窓口担当者」を配置し、連絡調整等準備を進めている。

今回の年次大会報告会では、各窓口担当者がそれらの年次大会に参加し、情報収集してきたことを共有し、2019年の会合を準備するにあたっての課題を検討

した。また、第2回運営委員会では、本年度の事業報告（京都大会に向けた関連ワークショップや講演会、ICOM本部との打合せ等）およびICOM 京都大会の準備進捗状況を報告し、来年度の予定について報告した。運営委員は、総勢60人以上になり、ボランティア体制や賛助金・寄付金集め、ポストICOM大会も視野に入れた学術的な検討等も始まっている。

2018年度は、5月19日に大阪歴史博物館で国際博物館の日記念シンポジウム、9月30日にICOM 舞鶴ミーティング、12月1-2日に九州国立博物館でICOM-ASPAC年次大会など、行事が目白押しだ。



第2回 ICOM 京都大会運営委員会（全体会）



右から栗原運営委員長、佐々木組織委員長、半田事務局長、仲谷事務局長

京博連が創立25周年。  
祝賀会や記念シンポジウムなどで盛り上がる



3月2日、京都市内博物館施設連絡協議会（京博連）創立25周年記念祝賀会が京都市内で開催され、およそ80人が参加した。京博連は、伝統文化や歴史、産業、自然科学など京都のまちにある様々な分野の博物館・美術館が互いに協力しあい、博物館・美術館活動の一層の発展を目指して1992年に101館で設立された。現在では加盟施設数が200館を超え、全国でも例を見ない大規模な博物館ネットワークとして大きく発展している。

当日は、京博連会長である佐々木丞平・京都国立博物館長（ICOM 京都大会組

織委員長）があいさつし、細見良之幹事長（細見美術館長）の乾杯と、門川大作京都市長による祝賀や、初代幹事メンバーから当時の思い出話などがあった。門川市長からは「ICOM大会の開催地は、京博連がなかったら東京になっていたかもしれない。京博連が中心になってICOM 京都大会を盛り上げていきましょう！」との力強い言葉が贈られた。

京博連は、ICOM 京都大会開催に向けた機運の向上にも取り組んでおり、2月4日には創立25周年記念シンポジウムを開催し、佐々木委員長による基調講演「文化をつなぐミュージアム～伝統を

未来へ～」と、作家の原田マハ氏、細見館長、門川市長によるパネルディスカッションが行われた。このほか1月から3月にかけて、例年行っている「京都ミュージアムロード」との同時開催企画ICOM 京都大会の開催記念イベントとして、博物館とコラボした限定スイーツを提供する「京のスイーツミュージアム」や、閉館後のミュージアムを舞台に、館長や学芸員が週末の夜のミュージアムをご案内する「ナイトミュージアム京都」などを実施した。



あいさつをする佐々木京博連会長



祝辞を述べる門川京都市長



原田マハ氏、細見館長、門川京都市長によるパネルディスカッション

第9回小さいとこサミット in 大東 開催 2018.2.16 大東市立総合文化センター  
☆エクスカッション、「れきみんカーニバル with 小さいとこネット」 2.17 大東市立歴史民俗資料館



9回目を迎えた「小さいとこサミット」。約100名が参加して、企業や文化施設、学校などの連携について事例紹介があった



一般来館者向けイベント。大東市歴史民俗資料館の市民学芸員による「れきみんであそぼ」



八尾市立しおんじやま古墳学習館の「発掘体験BOXで遊ぼう」



大東市の企業の技術や製品も紹介され、検討し合う



参加館がミュージアムグッズを持ち寄ったショップコーナー



篠山チルドレンミュージアムの「工作と昔あそび」

2010年に発足した「小規模ミュージアムネットワーク（小さいとこネット）」小規模ミュージアム同士の交流を通してお互いの活動を学び合い、より良い施設運営をすることを目指している。参加者は関西方面を中心に全国に広がり、ミュージアムの館種もさまざま、職員、NPO、ボランティア、大学教員などミュージアムへの関わり方もさまざまである。現在、150人を越えた。普段は、メーリングリストを利用して情報や意見の交換をし、時には都合のつくメンバー同士で懇親会を催しているが、その交流活動として、年1回「小さいとこサミット」を催している。

去る2月16日、大阪府の大東市立総合文化センターで「第9回小さいとこサミット in 大東」が開催された。2017年度のテーマは、「小さいからできる！ミュージアムと“じゃないとこ＝異業種”との連携」。主催館となった大東市立歴史民俗資料館の周辺には、魅力ある企業や商店がたく

さんあり、同館がそれらの企業と連携して資料調査を行い、展覧会を行ってきたことの実績があったことに発している。連携の枠組みを異業種（企業、商店、大学）に広げ、それぞれの得意分野を掛け合わせることでミュージアムの可能性も高まるのではないかと趣旨である。

全国から約100人が集まり、熱気を感じる会場。事例紹介では、大東市立歴史民俗資料館が地元の金型メーカーとだんじり調査した経緯や、地元企業である川村義肢株式会社がウミガメ用人工ヒレ開発のプロジェクトに参加した事例が紹介され、また参加者からミュージアムと学校、幼稚園、郵便局、企業、大学などと連携した13の事例もプレゼンされた。「小さいとこ」でも、または「小さいとこ」ゆえのユニークな発想、がんばりぶりが紹介され、交流し、それぞれの「小さいとこ」が活力を持ち帰られたようだ。

なお、翌17日は、午前中にエクスカ

ション「実践の現場を見にいこう！～ミュージアム&工場見学～」として大東市歴史民俗資料館と連携する明星金属工業株式会社を訪ね、午後は、同館を会場に一般来館者向けイベント「れきみんカーニバル with 小さいとこネット」が催された。参加館それぞれのプログラムで来館者と体験し、ミュージアムの楽しさをアピールした。大人と子どもで約400人が参加し、賑わった。

大東市歴史民俗資料館館長の武井二葉さんは、今回のサミットについて、「小さいとこはネガティブに捉えると逃げ出したくなる。でも、サミットを通じて、大きいとも小さいとも、人と人が出会わなければ何も始まらないことがわかった。企業や地域など人との距離が近い「小さいとこ」だからこそできることがあると、わくわくしてきた」と振り返り、語る。これからは「小さいとこ」の大きいパワーに注目したい。